

別紙一3 廃棄物の排出方法

(1) 使用船舶

一般水底土砂のしゅんせつから排出するまでの過程において使用する船舶の仕様及び使用台数を表-1に示す。

使用する船舶について、万一、仕様が変更になった場合、規格が大きくなることで当該排出海域への影響が大きくなることが懸念されるため、申請時の排出量は超えないことを施工条件として設定することとする。

表-1 使用する船舶（予定）

工種	使用船舶	仕様	使用台数
しゅんせつ	グラブしゅんせつ船 またはバックホウ浚渫船	鋼 2.5～5.0m ³	1隻
運搬・排出	土運船	密閉式	1隻
	ガット船	499t級、バケット 3.0m ³ 、積込容量 657m ³	1隻

(2) 排出手順

① 土砂のしゅんせつ

- ・土砂のしゅんせつはアンカー等で固定したバックホウ浚渫船またはグラブ浚渫船により行い、土運船に積み込む。
- ・しゅんせつ位置についてはGPSを用いて確認を行い、記録する。また、しゅんせつ作業においては深さを音響測深にて確認しながら行う。
- ・しゅんせつ土砂は排出海域への運搬のために土運船からガット船に積み替える。



写真-1 しゅんせつ及び土運船への積み込み状況



写真-2 土運船からガット船への積み替え状況

② 土砂の運搬

- ・しゅんせつ土砂の運搬に使用する船舶はガット船1隻を配備する。
- ・しゅんせつ土砂は、しゅんせつ場所である外川漁港から約37km離れた排出海域までガット船により運搬する。(漁港から排出場所までおよそ2時間程度)
- ・排出海域の位置確認は、ガット船に装備されたGPSにより行う。
- ・GPSには、あらかじめ排出海域の四隅の緯度・経度を入力し当該範囲を計器上で目視確認出来るようにしておく。
- ・排出海域への移動時には、ガット船の操船者が逐次GPS上で自船の位置の確認を行う。



写真-3 ガット船によるしゅんせつ土砂の運搬状況

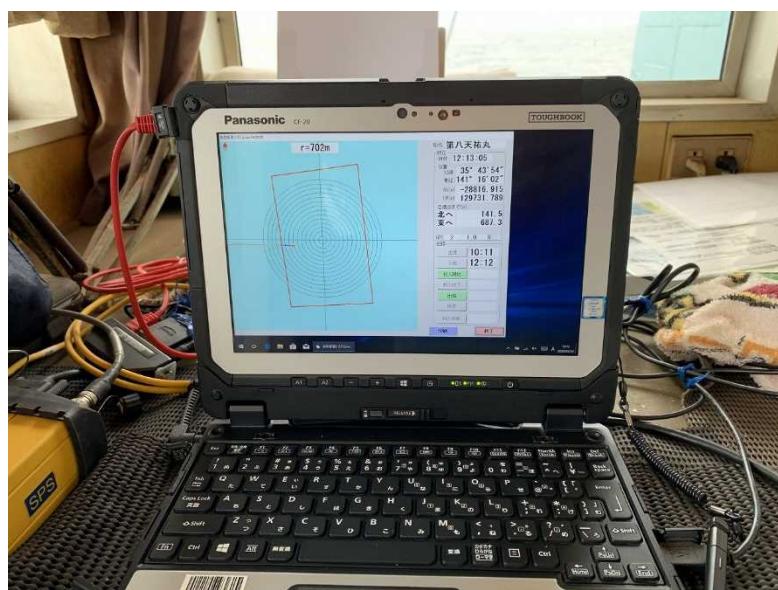


写真-4 GPSによる自船の位置確認状況

③ 土砂の排出

- 排出する海域は水深が深く、アンカーによる固定は不可能であり、また、海流や波浪等による影響が大きいため、排出海域において排出位置を GPS にて確認しながら、排出作業を行なう。また、排出地点が 1 か所に集中しないように、排出海域内を移動しながら、均等に排出作業を行う。
- ガット船は、自船のコーミング部（積荷の収容部分）の土砂をバケット（クレーンの先にしている開閉式容器）で掴み、船外へ排出する。このとき、積荷の土砂が偏ると船の転覆の危険があるので、偏らないように排出する方向の左右を定期的に切り替える。
- 航行中には排出を行なわない。
- 排出量の確認は、ガット船のコーミング部（積荷の収容部分）からバケットによりしゅんせつ土砂を最大限に排出した後、ポールスタッフ等を使用して、取り残し量の厚み、面積を検収することで行なう。
- バケットによる排出時間については、その時の気象海象条件により左右されるが、およそ 90 分である。排出作業の所要時間については、GPS 航跡記録にて、その都度確認する。
- 排出海域の出入りやバケットによる排出開始及び終了位置や数量等については、排出船に備え付けの「外川漁港廃棄物処理記録簿」に記載する。

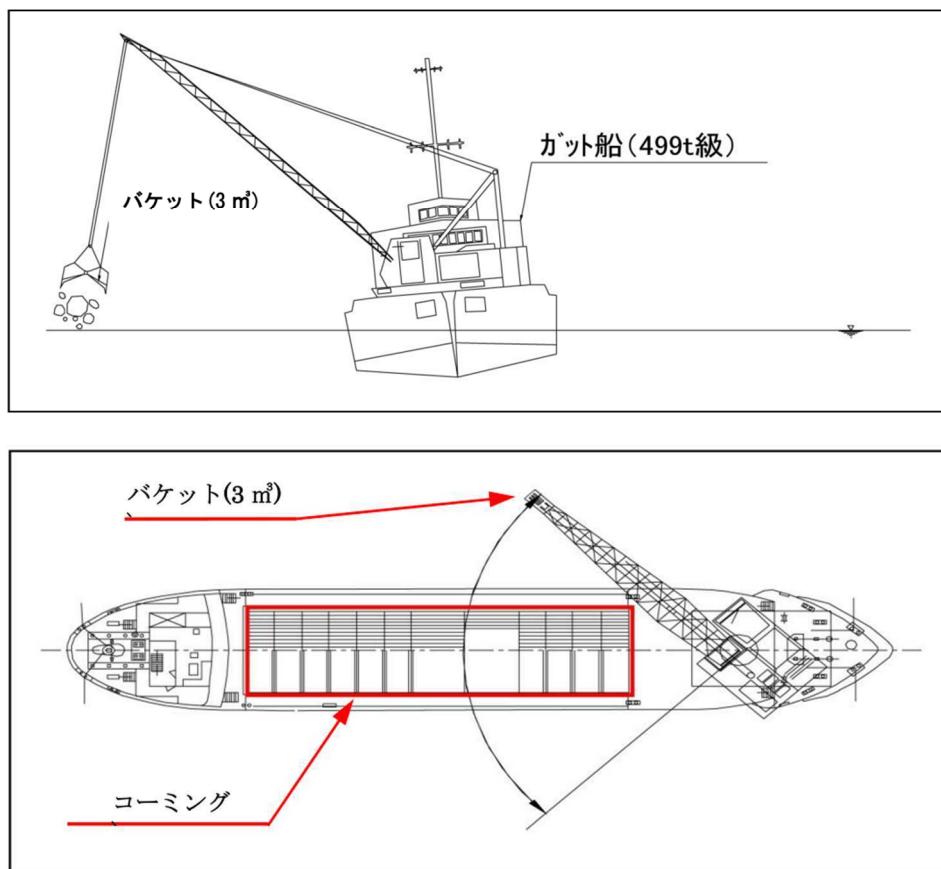


図-1 潛渫船模式図



写真-5 ガット船によるしゅんせつ土砂排出状況

(3) 排出回数（頻度）

- ・作業時間に制限（日の出から日没まで）があるため、1日あたり、1ないし2航海とする。
- ・1航海当りの排出量は、約 600 m^3 で（最大 657 m^3 ）、最大排出回数は2航海/日とする。
- ・年間航海回数は、予定されている年間排出量（ $28,906\text{ m}^3$ /年）から、50航海程度を計画するが、就業時間の関係や気象条件等により、積込量が減ずる場合は、排出回数は上述より増加する。